

### 第3回協働推進委員会記録

日時	平成31年2月21日(木) 18:30~20:00
会場	豊明市民交流センター 多目的ルーム
出席者	委員：青木康子、青山孝司、浅田利一、石山英明、市野恵、小池田忠、小島博司、榊原優、三矢勝司、矢澤久子、山崎恵美子(以上11名) 豊明市：市民生活部長、市民協働課長、協働推進担当係長、協働推進係職員 傍聴者2名

#### 議事

委員長あいさつ

#### 1 報告事項

(1) 市民交流センターの現状報告について(総合計画推進事業レビューの結果報告)

- ・資料1に基づき、事務局より説明。
- ・唐竹小学校跡施設は誰が管理をするのか。  
→ 今後話を詰めていく(直営ではないと思われる)。
- ・農村環境改善センターに市民交流センターを移設するのも良いと思うが、なぜ唐竹小学校跡施設なのか。  
→ 市民交流センターを含めた複合施設にしたいと考えているため。
- ・今(分庁舎2階)よりも面積は大きくなるのか。  
→ 大きくなる。
- ・分庁舎2階で積み上げた経験を唐竹小学校跡施設へ移転した際に、さらに発展させてほしい。
- ・唐竹小学校跡施設への移転について、状況が見えてきたらまた委員会の場で確認をする。
- ・事務局長はいるのか。  
→ 運営委員会のメンバーが市民交流センター職員の中にいるため、その人がリーダー的存在になっている。  
→ 事務局長的立場の人は必要だと考えているため、今後検討していく。
- ・岡崎の場合は、まとめ役のセンター長と一般の職員は別待遇の処置(シフト制ではない等)をしている。
- ・市民交流センターの職員同士の引継ぎは問題ないのか。  
→ ノートで引継ぎを行い、今のところ問題は生じていない。
- ・岡崎の場合、職員同士の情報の洩れ防止のために、月1回全員が集まる定例会議を開催している。  
→ 運営委員会と市民交流センター職員、市民協働課との交流が無かったから、今後交流できる場を設けることを考えている。
- ・市民交流センターの職員が窓口になる時間帯が生まれるが、問題ないのか。  
→ 市民協働課職員もフォローをしている。

- ・知多市の場合は職員が1人だけ。一宮の支援センターは職員が1人で、ボランティアが応援する体制。
- ・窓口から出つつ市民活動を支援するのもセンターの役割。
- ・まずは地盤固めが大切。
- ・市民交流センターは市民活動の応援に加え、地域も応援していくことを想定しているため、元自治会長が関わってくれれば良い。
- 区長経験者が2人運営委員会に入っている。

## 2 協議事項

### (1) 市民交流センターの運営について

- ・資料2に基づき、事務局より説明。

#### 【フリースペースの活用方法】

- ・相談にのれる人（確定申告等）が窓口にいると、人が相談に来る。
- ・多目的ルームが予約できなかった人に、フリースペースを勧めてはどうか。
- ・電源とwifiがあると良い。
  - 設置済み
- ・ちょっとしたミーティングのスペースとして利用してもらえると良い。
  - 補助アイテムとして、ホワイトボードを設置すると良い。
- ・まずはフリースペースがあること、市民交流センターがオープンしたことを知らせる必要がある。
- ・情報コーナーをフリースペースの中に入れたらどうか。
- ・関係者（市職員、運営委員会等）が使うことも大事。
  - ちょっとしたコミュニケーションをして、口コミで広げる。
- ・特色（印刷ができる、コーヒーが飲める等）を出すと良い。

#### 【センターの職員教育】

- ・岡崎の場合は、長と副を中心にコーディネートスキルを伸ばす教育をしている。
  - 一般の人の教育にエネルギーをあまりかけない。
- ・相談を受けて、適切な人、場所へつなげる体制づくり（ネットワークづくり）が大切。
- ・市の職員だと間違えられることもあるため、市役所の仕事を覚え、つなぐことも大切。
  - 市の組織体系、相談窓口の知識を身につける。
- ・相談にのってくれる人を把握する。
- ・市民交流センターが持っている情報と、市民交流センターの目的を全面に出すと、それに合った相談者がくる。

(2) 第2次協働推進計画について

- ・資料3に基づき、事務局より説明。

**【市民活動情報誌発行事業】**

- ・発行部数が少ないのでは。(NPO法人ネットワーク大府の広報誌は2,000部ほど発行)
- ・回覧はしないのか。
  - 回覧は町内会に負担がかかる。
  - 興味のあるチラシは回覧板でも見る。
- ・回覧板は見ない可能性があるため、広報誌にコーナー(毎月掲載)を設けてはどうか。
- ・情報の収集、発信はプラスくらんぶるが持つべき機能である。

**【市民提案型まちづくり事業交付金(ビギナーコース・ヤングコース)事業】**

- ・学校に飛び込み営業をし、地道に開拓するしかない。
- ・実績を広く知らせる(情報発信)必要がある。
  - 実績を発表する場があると良い。
- ・制度のことを知られていないだけだと思う。
  - 情報が行き届いていない。
- ・方法の例として、以下の2つがある。
  - ①過去の採択団体を集め、制度の見直しをすると同時に、仲間に引き入れる。
  - ②実績報告会とは別にフォーラムを開催し、人を集めて採択団体の紹介&申請に促す。
- ・申請書の書き方が苦手な人(団体)に対して、助言があると良いアイデアが生まれたりする。
  - 市民交流センターの職員が団体にアドバイス(一緒に考える)ができると良い。
- ・助成金獲得講座のような講座を開催し、人を育てるのもよいのでは。

3 その他

(1) 協働推進担当者研修会の実施について

- ・資料4に基づき、事務局より説明。

(2) 協働ラベリング調査の依頼について

- ・資料5に基づき、事務局より説明。

(3) 協働推進委員会の委員募集について

- ・資料6に基づき、事務局より説明。

◆次回の委員会の日程については、会議内容を調整後、改めて連絡する。